

平和と戦争について

古堅中学校

三年

盛根

秋菜

皆さんは、戦争と平和についてどのくらい考えたことがありますか？

毎年6月になると、沖縄戦についてテレビなどで記録映像や写真を見かけます。そのたびに私は、「なぜ『戦争』というものをするのだらう？大勢の人々の命を犠牲にし、誰がどのような得をするのだらう？」という思いがでています。

体験者から聞いた話では、「食べる物がなく他の畑から取った食べたり、草や虫を食べたりしていた。夜になつて壕で隠れていた時は、腐った傷口にウジが湧き、肉を食いちぎる音が周りから聞こえた。そして、家族と離ればなれになり亡くなつた方もいた」と聞きました。また、6月18日、私達の学校でも平和集会がありました。地元の松田さんが話をしてくれました。でも、最初に話をする前に、「私は当時の話をするのはとても嫌です。思い出

したくないです。今まで話をすることばかりができませんでした。でも、皆さんに話をして、戦争の悲惨さなどわかってもらいたい、もう二度と戦争というものをしないうように、次は皆さんに伝えてもらうために、今日、話をします。という言葉に私は、未来の子ども達に伝えていきたいと思いました。そして、松田さんの話を聞いて、再び、戦争の悲惨さや戦争というもので人間が変わってしまうなどのことがわかりました。

このように、映像や写真にはない一人一人の生々しくて、悲惨な体験だと思いました。現在は、食べるものもあり、家もあり、何か欲しいときは何でも買えて、学校で勉強することばかりできて、親や友達がいいます。だけど、戦争のときは真逆だったと思います。食べるものも少なく、家を失う人もいて、学校で学ぶことは、竹やりでの訓練だ、たと言われいています。このときの子どもたちは、今の子どもたちのように多くの夢を持ってなかったの

ではないか。と私は思いました。

現在の日本では、三大原則の1つである日本国憲法第9条に「平和主義」というものがあります。平和主義の内容は、「戦争の放棄」「戦力の不保持」「交戦権の否認」の3つの要素から構成されています。わかりやすくいうと、「戦争はもうしない」「軍隊はもう持たない」「ここから戦争を仕掛けることなんてしない」という内容です。今は「憲法」というものに守られていますが、もし、この

憲法がなくなったら今ごろ戦争を行っていたと思います。平和を第一に考え、戦争をせず、どんなときも納得するまでお互いが話し合うことは、平和なる第一歩だとわかりました。この考えが、他の国にも伝わってほしいと思います。

最近、北朝鮮の核兵器が問題となっており、長崎県や広島県のように大勢の人々の命をうばったものより人々を救い、役に立つようなものを作ってほしいです。

これから先、平和な未来を守っていくのは私たちです。1945年の沖縄県から、68年目を迎えました。今では、体験者や語り継ぐ人たちがどんどん減ってきています。次に、沖縄戦や原子爆弾が落とされた、長崎県や広島県について教えるのは、私たちの使命だと思います。

今、日本は憲法改正を進めようとしています。しかし、憲法第9条は日本の宝だと思います。それを、改正しないでほしいです。

「戦争」という本当に悲慘で、あんなに恐ろしいことは、もう二度と引き起こしてほしくない。世界中が、武器を持たず、話し合いで解決するという平和主義な世界になってほしい。

この思いがどうか伝わるよう、一人一人の心に「平和」というものを刻み込んでほしいと思います。